

# 評価シート

事業名	小中学校施設整備事業	担当課名	総務学事課
		担当係名	教育総務係

## 1 事業概要(PLAN)

(1)総合計画後期基本計画施策体系	基本目標	大竹を愛する人づくり
	施策の方向	地域を担う人づくり
	主要な施策	義務教育の充実
(2) 目的	ふるさと「大竹」を愛する児童・生徒を安心して育成できる教育環境を作ります。	
(3) 目指す効果	耐震化により、児童・生徒・教職員の安全と適切な教育環境を確保するとともに、災害時の避難場所となる学校施設となります。	

## 2 実施状況(DO)

(1)実施内容	玖波小学校の耐震化対策を行い、市内すべての小中学校の耐震化が終了しました。平成26年度 校舎改築及び講堂(体育館)の耐震補強に係る設計等、平成27年度 講堂(体育館)の耐震補強工事完了、平成27年度～平成28年度 校舎の改築工事(平成29年2月末完成)							
(2)実績								
	指標項目		基準値H26	H27	H28	H29	H30	H31
	学校施設の耐震化率	目標値	-	100%	100%	100%	100%	100%
		実績値	83%	83%	100%			
(3)コスト	単位:千円	H27		H28		H29(予算)		
	事業費	250,393		966,285		-		
	うち一般財源	140,055		20,503		-		

## 3 自己評価及び方向性(CHECK&ACTION)

(1)判定結果						
評価項目(評価の視点)	評価区分			判定	理由	
必要性	事業手法	A	妥当である		A	児童・生徒・教職員の安全と適切な教育環境の確保、災害時の避難場所となる学校施設とするための手法として、耐震化が必要であり妥当だと考えます。
		B	妥当であるが改善する余地がある			
		C	他の手法の方が効果的である			
有効性	目標値	A	達成している		A	目標とした耐震化率を達成しました。
		B	ほぼ達成したとみなすことができる(若干の目標達成を含む)			
		C	目標値を大きく下回っている			
性	目指す効果	A	得られている		A	児童・生徒・教職員の安全と適切な教育環境を確保し、災害時の避難場所となる学校施設となっています。
		B	得るまでに時間を要する			
		C	十分に得られていない			
効率性	費用対効果	A	高い		A	補助金等を有効に利用し、少ない一般財源の負担により、事業を実施しました。
		B	十分でない			
		C	低い			
(2)方向性	事業の実施	休廃止を検討	方法	一時休止する		
説明	玖波小学校の耐震化終了を持って市内全ての小中学校施設が耐震施設となったことから、施設整備事業を一時休止し、今後必要となる施設整備を精査したうえで事業を実施する必要があります。					

## 4 評価委員意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校施設の耐震化対策を行わざるを得ない状況であったが、市内の全学校が早期に目標を達成できたことは評価できる。</li> <li>・全ての学校が耐震施設となり、安全な教育環境が整備されたことは評価できる。また、事業実施にあたり、補助金が有効に活用されている。</li> <li>・整備した学校施設について、避難場所としての機能が発揮されるよう、平素から取り組んでもらいたい。</li> </ul>
---